

## 点鼻用グルカゴン製剤（バクスミー®点鼻粉末剤 3mg）の適正使用について

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

### 1. はじめに

糖尿病治療は食事・運動療法が基本である。しかし糖尿病薬の研究開発が進み新規薬剤が上市され、患者の病態に合わせた糖尿病薬を選択できるようになった薬物療法は、治療の中心となりつつある。その結果、患者に適切な糖尿病薬を選択することで、ある程度は良好な血糖マネジメントが得られやすくなったと考えられる。患者にとって有益な糖尿病薬の発展であるが、その反面「糖尿病薬の服用で検査値が改善する」と安易に薬物療法を捉えている患者も少なくない。その結果、低血糖を発症し、重症低血糖に至る患者が救急搬送されることがある。低血糖や重症低血糖については「適正な糖尿病薬物療法のための低血糖対策支援のてびき」を参照されたい。

### 2. 重症低血糖と点鼻用グルカゴン製剤（バクスミー®点鼻粉末剤 3mg）

低血糖時に適切な対処をしないと重症低血糖を発症する。「糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会報告」<sup>1)</sup>では、「自己のみでは対処できない低血糖症状があり、発症時または受診時の静脈血漿血糖値が 60mg/dL 未満（毛細管全血 50mg/dL 未満）が明らか」な場合を、重症低血糖と定義されている。重症低血糖の処置は、自己のみでは対処できないので第三者によるグルカゴン投与となる。従来は用時溶解型注射製剤であったが、2020 年 10 月に新規グルカゴン製剤である「バクスミー®点鼻粉末剤 3mg」（以下、バクスミー®）が発売され、処方箋調剤が行われるようになった。従来の筋肉注射製剤に比し、点鼻製剤であることから、意識消失している患者へ、第三者が行う医療行為のハードルは下がった。しかし第三者が、意識障害のある患者を目の前にしても正しく操作ができるようにするためには、第三者となる患者の家族など（以下、家族等）への心理面での配慮も含めた使用支援が必要となる。

### 3. 点鼻用グルカゴン製剤（バクスミー®点鼻粉末剤 3mg）の使用手順<sup>2)</sup>

バクスミー®は使用直前まで、製剤上部にある赤いフィルムを開封しないようにする。処置時に赤い包装用フィルムをはがし、黄色い容器のふたを開けて、点鼻容器を取り出す。この際に、間違えて注入ボタンを押さないように注意する。人差し指と中指で、点鼻容器の先端を押さえ、注入ボタンに親指を添え、点鼻容器の先端を片方の鼻の穴にゆっくり差し込む。その後、親指で注入ボタンの下部にある緑色の線が見えなくなるまで押し込む。その際に抵抗を感じるが、最後ま